



国立大学法人北海道国立大学機構

帯広畜産大学の取り組み

令和7年6月発行

明治18年に、晩成社を率いた依田勉三翁は北海道全域を調査した結果、広大な十勝平野が農業・酪農に適した土地であると確信して開拓を始めました。先人たちは数々の苦難を乗り越え、原野を農地へ転換し、十勝は約140年後に日本有数の食料生産の中心地となっています。

昭和16年に、文部省は十勝帯広を最適地と認め、我が国初となる官立の帯広高等獣医学校を設立しました。その後、数々の教育改革を経て、帯広畜産大学は「生産から消費まで」一貫した環境が揃う十勝に位置し、生命、食料、環境をテーマに、農学・畜産科学・獣医学を専門とする、我が国唯一の国立単科大学となりました。また、令和4年には、帯広畜産大学、小樽商科大学、北見工業大学の3大学が経営統合し、国立大学法人北海道国立大学機構となりました。農商工連携により、北海道経済・産業の発展と国際社会の繁栄並びに、SDGsに示された持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

農学は食料や生活資材、生命、環境を対象とし、自然と社会すべてに関わる総合科学です。今日、日本では少子高齢化による生産人口の減少や地方創生が課題となる一方で、世界の人口は増加し続けています。人口の増加に伴い、エネルギーや食糧が必要となります。また、気候変動にともなう自然災害は、世界中で後を絶ちません。令和7年2月4日に帯広では、観測史上最大となる一晩で124cmの積雪がありました。

馬の獣医師養成からスタートした本学は、馬に関わる取り組みにも力を入れています。昨年から多方面の協力を得て、馬生産育成教育棟の整備を進め、今年は念願の覆馬場が、完成しました。これにより、雪が降っても雨が降っても、一年中、馬の取り組みを行うことが可能となりました。

今後も、本学は「知の創造と実践によって、実学の学風を発展させ、『食を支え、暮らしを守る』人材の育成を通じて、地域および国際社会に貢献する」というミッションを遂行し、公共財である国立高等教育機関としての役割を果たします。



帯広畜産大学長
長澤 秀行

実習圃場で垂直型ソーラーシェアリング実証実験を開始

帯広畜産大学と北海道自然電力株式会社は、北海道十勝の農畜産業における営農型太陽光発電実証研究等を通して、十勝地域のカーボンニュートラルの実現及び持続的発展に貢献するため、令和6年8月20日に連携協定を締結しました。この連携の一環として、全学農畜産実習圃場に両面パネルを備えた垂直型と傾斜型の太陽光発電設備を設置しました。これは、十勝地域における太陽光発電の発電量の比較と、作物の生育への影響を調査するための大規模実証研究に向けた先行実験のために設置されたものです。今後は、本学の大規模圃場での検証に展開し、得られた研究成果は地域産業に還元することを目指しています。



▲瀧口代表取締役社長と長澤学長(左から)



▲実習圃場に設置した太陽光発電設備

馬生産育成教育施設

令和5年度に厩舎の改築、飼料庫・繋留場や関連付帯施設などの整備を行いました。令和6年度には、年間を通して総合的な馬科学教育を行うことができ、季節や天候に左右されない馬生産育成教育棟を中心に、関連付帯施設の整備が行われました。



目的

最適な教育環境の中で馬に関する専門的な知識と実践的に技術を身に付けた人材の輩出を目的として、「馬総合科学の拠点」となる施設を整備し「馬人材教育プログラム」を構築します。

【全天候型覆馬場】

屋根と外壁に囲まれた屋内馬場により、天候や季節に左右されず、冬季期間も安全に騎乗実習等を行うことができます。

また、馬術競技基準(60m×20m)に近い馬場面積があり、安全に馴致実習を行うことが可能で、人馬共に落馬緩衝対策として、外周部へ衝撃吸収腰壁を設置しています。



▲新たに完成した全天候型 覆馬場

畜産フィールド科学センターの整備が終了

畜産フィールド科学センターは建築後50年を経過し、基本性能の低下や老朽化が著しく進行しているため、センター全体の段階的な再開発により、施設群の集約化を図っています。これまでに「牛舎」「搾乳舎」「乳製品製造工場」が整備されました。

令和6年度は「管理棟」の改築と既存施設の取り壊しを行い、畜産フィールド科学センターで予定されていた整備が全て終了しました。



▲新たに完成した畜産フィールド科学センター管理棟

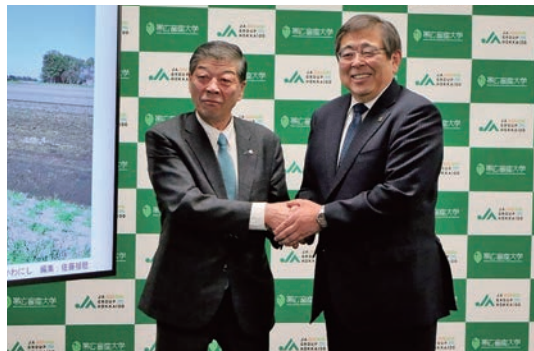
次世代農畜産技術実証センターを設置

令和7年3月に産業の成長と食料安全保障の強化を目的として、新技術の研究開発と最適な実証試験を推進する研究組織「次世代農畜産技術実証センター」を新たに設置しました。

【十勝地区農業協同組合長会 デジタル農学寄附講座を設置】

令和7年4月、帯広畜産大学と十勝地区農業協同組合長会は、デジタル技術を活用したスマート農業の研究と人材育成を通じて、地域農業の発展と持続可能性を向上させることを目的に、次世代農畜産技術実証センター内に十勝地区農業協同組合長会デジタル農学寄附講座を設置しました。

この寄附講座では、ドローンを活用した精密農業の推進を含め、ICT、AI、データ解析技術を活用した十勝型デジタル農業の導入・最適化に関する研究に取り組むとともに、JA組合員やJA職員、本学の学生を対象に教育プログラムを提供し、人材育成を図ります。



▲山口会長と長澤学長(左から)

第2回畜大シンポジウムを開催

令和6年11月28日に、第2回畜大シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、帯広畜産大学が主催し、令和6年6月に設立された「ミルク&チーズコンソーシアム」の活動を広く知っていただくことを目的としています。また、日本の酪農・乳業を持続可能な産業として未来につなげるための議論の場として、多くの皆さまにご参加いただきました。

シンポジウムは、講堂で開催され、オンライン配信も行われました。参加者は、学内外からの研究者、学生、業界関係者など多岐にわたり、計227名(会場94名とオンライン133名)が参加しました。



▲パネルディスカッションを行う様子

令和6年度災害復興支援コンサート ～帯広・十勝に花は咲く～ を開催

令和7年3月9日に講堂にて「令和6年度災害復興支援コンサート ～帯広・十勝に花は咲く～」を開催し、339名の方にご来場いただきました。コンサートには、学生サークルの帯広畜産大学ジャズ研究会と陸上自衛隊第5音楽隊がそれぞれ様々な曲を演奏し、最後には東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を来場者全員で合唱しました。来場者から248,556円の寄付金が寄せられ、能登半島地震の復興支援のため、十勝毎日新聞社を通じて日本赤十字社へ寄付しました。



▲来場者全員で「花は咲く」の歌唱



▲帯広畜産大学ジャズ研究会の演奏



ゼニガタアザラシ研究グループが 前田一步園賞を受賞

学生サークル「ゼニガタアザラシ研究グループ」が前田一步園賞を受賞しました。

前田一步園賞は、北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関して、道内各地で地道な努力を重ね、顕著な功績のあった個人、団体に贈呈されるものです。

ゼニガタアザラシ研究グループは、昭和57年に発足され、現在約50名の学生が在籍しています。襟裳岬や道東沿岸で年に4回、個体数調査(センサス)を行うほか、シンポジウムの開催、小学校や動物園での出張授業を行うなど、ゼニガタアザラシとの共存に向けて、普及啓発活動も行っています。

今回の受賞は、個体数調査によって蓄積されたデータが環境省の「えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画」の策定に活用されるなど、50年におよぶ調査の継続が高く評価されました。

第42回 前田一步園賞 表彰式



▲安海さんと宮澤さん(左から)



▲個体数調査(センサス)の様子

忠類ナウマン象記念館と協働作製したヒグマの骨格・毛皮標本が完成

忠類ナウマン象記念館(幕別町)と帯広畜産大学の教員および学生が協働して作製していたヒグマの骨格・毛皮標本が完成しました。

この取り組みは、幕別町で捕獲駆除されたヒグマを教育活動に活用し、記念館と学生サークル「えぞほね団」をはじめとした本学学生の協働・交流を活性化することを目的として、実施していたものです。作製した標本は令和7年3月23日より、忠類ナウマン象記念館にて常設展示されています。

ナウマン象が生きていた時代には、既にヒグマが日本に生息していたと言われており、記念館ではナウマン象と関連付いた展示がされています。



▲忠類ナウマン象記念館にて
展示されているヒグマの骨格標本

GIVING CAMPAIGN 2025に参加します

令和7年10月10日(金)～10月19日(日)

GIVING CAMPAIGNとは、オンラインで大学生を応援し、教育・研究・課外活動の支援の輪を広げるチャリティイベントです。イベントでは、応援したい学生団体への投票に加え、応援メッセージを届けたり、支援したい団体に寄付ができたりと様々な形で頑張る学生を応援することができます。また、実施期間中に獲得した「得票数」を参考に、協賛企業から学生団体へ活動資金が授与されます。

● GIVING CAMPAING 2024 結果 !

参加者数

4 5 6 3 人



本学の公認サークル、団体のうち43団体が参加し、4,563名が本学の団体に投票を行いました。また、1位の投票を獲得した女子アイスホッケー部は企業賞も受賞しました。

応援したい学生団体へ投票するだけで学生の支援に繋がります！
帯広畜産大学は、公認サークル、団体を中心として参加します。
応援をよろしくお願いいたします！



国立大学法人北海道国立大学機構
帯広畜産大学
Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地
TEL:0155-49-5219 FAX:0155-49-5229
E-mail:kouhou@obihiro.ac.jp
<https://www.obihiro.ac.jp/>

